

平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	マントル遷移層スラブの軟化と深発地震に関する実験的研究
研究代表者	久保 友明 (九州大学・大学院理学研究院・教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、高圧剪断変形場における相転移実験を行い、地下400～700 kmの沈み込み海洋プレートの挙動に関して、低温の遷移層スラブが軟化する過程を明らかにすると共に、軟化しているはずなのに深層地震が発生するメカニズムを解明しようというものであり、学術的な意義は高いと認められる。</p> <p>また、応募者らが開発した D-111 型高圧変形装置に放射光単色 X 線と音響放出検出を組み合わせ、in-situ で相転移とスラブ軟化の課程を観察しようという研究計画は挑戦的な課題ではあるものの、これまでの応募者らの研究活動実績に裏付けられており、実現可能性は高い。</p>